# 第1章

# 金剛地区再生指針とは

#### (1) 背景と目的

金剛地区(高辺台・久野喜台・寺池台)は、昭和 40(1965)年代に日本住宅公団(現: UR都市機構)により開発され、約半世紀が経過しています。この間、人口や都市基盤が 集積し、良好な住環境が形成されるなど、まちとして成熟し、魅力が育まれ、市の西の玄 関口として重要な拠点となった一方で、施設の老朽化や人口減少、少子高齢化が進行し、 それにともなうさまざまな課題が顕在化しています。

金剛地区は、計画的につくられたまちであるため、顕在化した課題に計画的に対応する とともに、開発当初のコンセプトである都市通勤者世帯の「ベッドタウン」から、住民の構 成や社会ニーズの変化に応じたまちに転換することが必要な時期を迎えています。

そこで、子どもや高齢者、障がい者等も含めた全ての住民の安心できる暮らしを守り、 また新たにさまざまな人々が暮らし集うことのできるまちとして魅力を向上させていくた め、まちの将来像や、将来像の実現に向けた取り組み等を示す「金剛地区再生指針」を策 定しました。

#### ○金剛地区の概要

- ・金剛地区は、昭和40(1965)年代に日本住宅公団(現:UR都市機構)により開 発された約216haの住宅地です。
- 現在、17,061 人(8,406 世帯)の人が暮らしています。

● 大阪狭山市 コール・ロゼ 高辺台一丁目 久野喜台一丁目 金剛2丁目 金剛公民館金剛図書館 企剛東地区

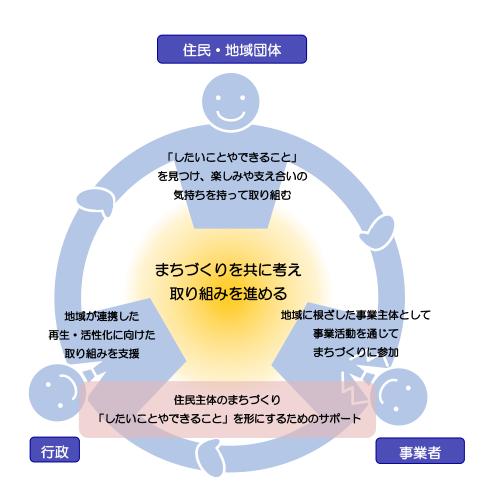
(※住民基本台帳・平成 28 (2016) 年 3 月 31 日時点)



### (2) 再生指針の位置づけ

本指針は、住民をはじめとして金剛地区にかかわるさまざまな立場の人等(住民・地域団体・事業者・行政等)とともにまちの将来像等について議論し、とりまとめたものであり、金剛地区にかかわる全ての人等が連携し、共に金剛地区の再生・活性化に取り組むために共有すべき方向性を示したビジョンです。

## 〇 取組姿勢



#### ○本指針の構成

# 第1章 金剛地区再生指針とは

# 第2章 金剛地区の魅力と課題

金剛地区の再生・活性化に向けて取り組む上で、活かしたい「魅力」と対応すべき「課題」を共有しましょう。

## 第3章 金剛地区の目指す将来像

金剛地区の将来はどのような姿で、どのような暮らしをしていたいか、再生・ 活性化に向けた目標像や思い描く「まち」や「暮らし」の姿を共有しましょう。

#### 第4章 将来像の実現に向けた取り組み項目

「金剛地区の目指す将来像」を実現するために、どのような取り組みをすれば よいのかを共有しましょう。

# 第5章 金剛地区再生の実現に向けて

金剛地区の再生・活性化に向けた取り組み方や体制を共有しましょう。

#### 平成 29 (2017) 年度からおおむね 10 年間

※2040年頃を見据えた再生・活性化の取り組みの中で、節目として設定する期間

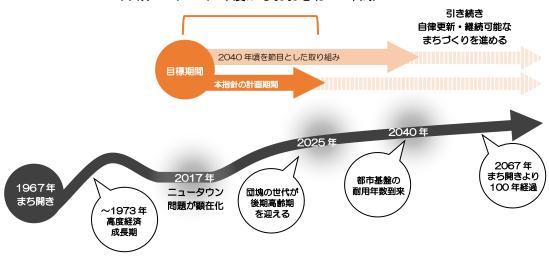
金剛地区の再生・活性化は、都市基盤・建築物等が更新時期を迎える 2040 年頃までを節目と見据えて進めますが、本指針においては、いわゆる団塊の世代\*が 75 歳以上の後期高齢期を迎える 2025 年頃を節目として、おおむね 10 年後を見据えた取り組み項目を示します。

金剛地区が持続発展的なまちとなるためには、まちの将来の節目として設定した 2040 年 以降も、引き続き、自律更新・継続可能なまちづくりを進めることが重要です。

本計画期間においては、指針に基づく取り組み等を着実に進め、将来像の実現を目指す とともに、2040年頃を見据えた取り組みや自律更新・継続可能なまちづくりに向けた基盤 づくりを進めます。

#### ○ 地区の再生・活性化の目標期間(イメージ)

「金剛地区再生指針」の計画期間 (平成29(2017)年度からおおむね10年間)



## (4) 富田林市の他計画との関係

本指針は、富田林市総合ビジョンや市の他の計画等との整合を図り、策定しました。今後、金剛地区の再生・活性化に向けた取り組みを行う上でも、これらと相互に整合を図りながら進めます。

## ○他計画との関係図

#### 富田林市総合ビジョン

(計画期間:平成29年度から10年間)

※分野別計画や施策の基本となる市の総合的な指針



#### (分野別計画)

※富田林市総合ビジョンに基づいた施策・事業等を進めるため、 特定の分野に特化した計画



#### 金剛地区再生指針

(金剛地区の再生・活性化に 取り組むために共有すべき 方向性を示したビジョン)

- 6 -	
-------	--